

お釈迦さまのご誕生

本山発行リーフレット

「ほとけのこ」《花まつり》より引用

独どく尊そん

— かけがえのないこと —

いまから二五〇〇年ほど前に、インドの北の方でお釈迦しやくかさまはお生まれになりました。それは花の咲く四月八日の日でした。そのお釈迦さまのご誕生をお祝いするのが「花まつり」です。

お釈迦さまは、お生まれになるとすぐに、天と地を指さして、「天上天下唯我独尊」(天上天下に、ただ我ひとりにして尊し)と声をあげられました。これは、「世界中で一番偉いのは俺だ」といばっているではありません。他の人と決して代わるることできない、かけがえのないいのちが与えられているということに目覚めたことばなのです。

だれだって、自分自身を大切にしたいと思っています。自分の一生が後悔のないものであることを願っています。しかし、どのよう

にすればその願いが実現するかは、あまりはつきりしていません。

お金持ちになること。有名になって回りから注目されること。競争に勝って人の上に立つこと。人の役に立って感謝されること。そのようなことが後悔のない人生に結びつくと思われることが多いのではないでしょう。ところが実際は、思いどおりにならないといつて苦しんだり、他の人と比べて自分を情けなく思ったり、しまいにはもう生きていく望みがないといつてやけを起こしたりしているのです。

そんな私たちにお釈迦さまは、「あなたは、だれとも比べることのできない尊い存在なのです」と呼びかけてくださっています。この呼びかけが聞こえないかぎり、勝ったか負けたか、得をしたか損をしたか、優れているか劣っているかというもののさしだけで自分を計り、一生を過ごしてしまうことになりません。

お釈迦さまのご誕生によって、何が本当にかたいせつなことであるかが、はじめて明らかになったのです。その釈迦さまの教えを聞くのが「花まつり」の日です。

(大谷大学 一楽 真 先生)

花まつり

今からおよそ二五〇〇年前、北インド・カピラ城のストーダナ王を父とし、マヤー夫人を母として、お釈迦さまはお生まれになりました。

ある夜、マヤー夫人は、右の脇から、体の中に白い像が入る夢を見て、懐妊された。出産のために実家のある隣国に帰る途中に立ち



寄られたルンビニー園という花園で休憩をされ、美しいアシヨールカの木の花を折られようとして右手を伸ばされたとき、右脇からお釈迦さまはお生まれになられた。この時、天人がおりてきて、太子の頭の上から、甘露の雨を降らせ、花びらをまき、あたりに香気が漂った。その中を太子は、七歩あゆまれ、右手は天を指し、左手は地を指して「天上天下唯我独尊」と言われた。

この日は、四月八日であったといわれる。

(同じく本山発行リーフレットより)